

稲作農家 各位

# 山武稲作情報 第4報(2016年6月28日発行)

山武農業事務所 改良普及課

電話 0475-54-0226

FAX 0475-52-7914

## 山武地域の生育状況

4月下旬に移植した「コシヒカリ」は幼穂形成期を迎えています。水稻の生育は、平年並みに進んでいますが、圃場によって生育にばらつきが見られます。稲の状態を観察しながら、今後の管理を実施してください。

全体的に葉色はさめてきましたが、梅雨期はいもち病に注意してください。

参考 生育調査ほの調査結果 (調査日 6月24日)

### 【主食用米】

品種	場所	年	移植日	葉令	草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 SPAD	葉色 カラー スケール	幼穂 形成期	調査日
ふさ おとめ	山武市 (白幡)	28	4/30	11.4	51	584	39.9	4.9	6/20	6/20
		27	4/27	10.1	51	563	38.5	4.8	6/14	6/15
		平年値	4/27	10.8	55	511	38.9	4.4	6/19	6/20
ふさ こがね	山武市 (成東)	28	4/26	10.3	49	511	37.7	4.7	6/18	6/17
		27	5/1	10.6	54	566	39.0	4.8	6/18	6/18
		平年値	5/1	10.4	56	559	39.9	4.9	6/24	6/25
コシ ヒカリ	東金市 (北之 幸谷)	28	4/22	10.7	67	594	36.5	4.5	6/24	6/24
		27	4/25	10.6	65	552	35.5	4.4	6/17	6/17
		平年値	4/23	11.0	68	546	37.3	4.6	6/26	6/27
コシ ヒカリ	山武市 (成東)	28	4/26	10.3	58	409	34.7	4.3	6/24	6/24
		27	5/1	10.7	61	521	34.8	4.2	6/24	6/24
		平年値	5/1	10.6	64	525	35.8	4.4	6/29	6/29
ふさの もち	山武市 (成東)	28	5/10	10.0	53	503	36.2	4.5	未	6/24
		27	5/11	10.1	51	581	35.8	4.4	7/1	6/24
		平年値	5/9	10.0	53	602	39.8	4.9	7/3	6/24

平年値は過去10年間(東金市コシヒカリは9年間、ふさのちは6年間)の平均値。

### 【飼料用米】

飼料用米の受付は6月30日までです。ご検討ください。

品種	場所	年	移植日	草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 SPAD	葉色 カラー スケール	幼穂 形成期	調査日
アキヒカリ	山武市	28	4/26	50.9	579.8	39.7	4.9	6/14	6/14
初星	東金市	28	4/26	51.5	473.6	41.1	5.1	-	6/24
夢あおば	山武市	28	5/10	65.3	422.3	44.4	5.5	-	6/24

### 郵便で配信している方へお願い

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたは FAX へ切り替えを進めています。電子メール・FAX をお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 水鳥 k.mztr@pref.chiba.lg.jp、 0475-54-0226 (電話)

## 今後の管理

### 1. 水管理

4月下旬移植の「コシヒカリ」は幼穂形成期を迎えています。中干しを終了し、湛水してください。特に平均気温が20℃以下の低温が続くような場合は可能なかぎり深水で管理してください。

### 2. 病虫害防除

梅雨期はいもち病が発生しやすくなります。平均気温 20～25℃で曇雨天が続く場合、いもち病の発生が懸念されますので注意してください。

稲こうじ病の発生が多いほ場では、穂ばらみ期に降雨が多いと発生が多くなりますので、出穂前に薬剤防除を実施してください。

また、茎数が多く、高温（30～32℃）が続くと紋枯病が発生しやすくなります。紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏の原因となるので、薬剤防除を実施してください。

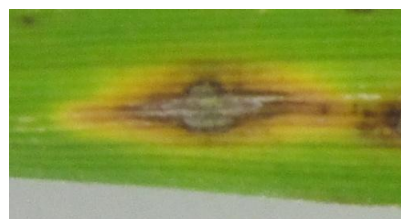
### 3. 追肥

穂肥の適期は幼穂形成期から7日後～14日後頃（幼穂長1cm～8cm）です。幼穂を確認し、一発肥料以外の人は適期に穂肥を施用しましょう。

## いもち病について

### ○いもち病の特徴

いもち病はカビの一種で、イネの発芽から収穫まで発生する病気です。収量を減少させる場合があるので防除が必要です。いもち病は侵す部位によって苗いもち、葉いもち、節いもち、穂いもちなどと呼ばれます。また、白点、褐点、慢性、急性などの4つの病斑があり、慢性型が一般的ですが、急性型が最も恐ろしい病斑となります。いもち病菌は種もみや被害わらで越冬し、気温12度以上で孢子が飛散します。



いもち病病斑

（中心部が灰白色でひし形をしています。裏側が灰色で孢子が見える場合、急速に広がるのですぐに防除が必要です。）

### ○いもち病の発生しやすい環境

いもち病は平均気温 20～25℃で曇雨天が続いて、葉・茎の湿っている時間が長い時に発生しやすくなります。また、川沿いや海沿いなど湿度の高い地域では発生が多い傾向にあります。

### ○いもち病の予防と対策

いもち病に対する薬剤には、予防効果のある剤と治療効果のある剤の2種類があります。葉に病斑が多数みられるほ場は穂いもちへ移りますので、予防効果と治療効果を兼ね備えた薬剤を散布しましょう。次年度対策となりますが、ケイ酸肥料は稲体を丈夫に保ち、いもち病発生の予防につながります。発生しやすいほ場では施用をおすすめします。

次回の情報は7月15日（金）に発行する予定です。

この情報は、山武農業事務所のホームページでも公開しています。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/sanbu/gyoumu/gijutsujohou.html>